

平成28年度
第2回

江東区総合教育会議議事録

平成28年10月28日（金）

江東区教育委員会

平成28年度 第2回江東区総合教育会議 議事録

- 1 開会年月日 平成28年10月28日(金) 午前11時00分
- 2 閉会年月日 平成28年10月28日(金) 午後0時15分
- 3 開会場所 江東区役所7階第73会議室
- 4 出席委員 区長 山崎孝明
教育委員 眞貝裕利子(委員長)、宇佐美衛、進藤孝、松江恒治、
岩佐哲男(教育長)
- 5 出席職員 押田政策経営部長、石川教育委員会事務局次長、
武田企画課長、杉田庶務課長、太田学校施設課長、青木整備担当課長、
梅村学務課長、本多指導室長、小坂学校支援課長、
遠藤放課後支援課長、寺内教育センター所長、保谷江東図書館長

6 議題

- 1 江東区立(仮称)第二有明小・中学校の特色化に向けた検討状況について
 - (1) 江東区立(仮称)第二有明小・中学校の開校に向けた地域の声を聴く取組の報告について
 - (2) 江東区小中一貫教育の基本的な考え方(修正案)について
 - (3) 江東区立(仮称)第二有明小・中学校に係る学校名称の候補案について
- 2 その他

7 審議概要

石川教育委員会次長 それでは、これより平成28年度第2回江東区総合教育会議を開会いたします。

本日の会議につきまして、傍聴したい旨の3名の申し出がございました。傍聴を認めたいと思いますので、事務局は、速やかに傍聴人を入室させてください。

(傍聴人入室)

石川教育委員会次長 次に、本日の会議の配付物のご確認をいただきたいと思います。よろしゅうございますでしょうか。会議の次第、それから資料は、上から順番に、資料1、資料2、資料3、参考1、参考2、参考3、最後に資料4でございます。よろしゅうございますでしょうか。はい。ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。総合教育

会議の主宰者でございます山崎区長、よろしくお願いいたします。

山崎区長 おはようございます。それでは、本日の議題に入ります。「1 江東区立（仮称）第二有明小・中学校の特色化に向けた検討状況について」を議題といたします。

初めに、「（1）江東区立（仮称）第二有明小・中学校の開校に向けた地域の声を聴く取組の報告について」、事務局より説明願います。

杉田庶務課長 それでは、私から「地域の声を聴く取組の報告」をさせていただきます。資料1をごらんください。

今年の8月の後半にアンケート、それから、9月2日に有明小・中のランチルームをお借りして、皆さんにお集まりいただき、区民の声を聴く会を実施いたしました。そのご報告でございます。

まず1ページをご覧くださいまして、アンケートでございます。有明小・中、東雲小の学区域にお住まいの1,000人の区民から無作為抽出しまして、8月12日から31日までという期間で郵送による発送、回収をいたしました。

質問内容は、有明小・中の連携教育について、それから、一貫教育の効果・課題について、（仮称）第二有明小・中の特色について、その他自由意見ということございました。

回収率は、34.4%でございまして、こちらは26年度に教育推進プラン・江東（後期）の策定に向けてアンケートを実施したときとほぼ同様でございます。

結果は、1枚おめくりいただきまして、3ページ以降に記載しております。大きなところをご説明いたします。

まず問1で、連携教育で得られると思う効果として、8番の「他学年交流による協調性・社会性の定着」というところが一番多い回答でございました。

それから、問2で小中一貫教育の導入への期待というところですが、「大いに期待できる」と「まあまあ期待できる」をあわせて70%以上の回答をいただきました。

それから、問3で、一貫教育により連携教育からさらに効果が上がると思われるものところは、やはり8番の「他学年交流による協調性・社会性の定着」が一番多くございました。

特徴的なこととしましては、5番の「学力の向上」が連携教育のほうは21%でございましたけれども、こちらは29.7%と、より高い数字が出ておりました。

それから、同様に12番の「教員の情報共有による授業改善」というところも連携教育は51.5%、こちらは54.7%と、さらに高い数値となりました。

それから、4ページに行きますと、小中一貫教育が抱える課題として、「人間関係の固定化」、「転入児童・生徒への対応」、それから、小・中の教員免許の併有というところが出ております。

その下の特色としては、「英語教育の強化・充実」が高い数字で出ております。それから、「9年間一貫した弾力的な教育課程」、「講師の配置」、「他学年交流」、「不登校やいじめ問題の解消」というところが出ておりました。

5ページ以降が選択肢以外の自由意見を表にしたものでございます。

主なところを申し上げますと、5ページの中ほど、問3で、一貫教育によりさらに効果が上がると思われるものが「英語力の向上」ですとか「保護者の不安解消」などが挙がっております。それから、その下の課題は、「いじめの長期化」など、いじめに関する不安、それから、経験不足、6年生の最高学年としての成長が不安として出ておりました。

6ページをごらんいただきますと、(仮称)第二有明小・中の特色としてどのようなことを期待するかというところですがけれども、「基礎学力の徹底」はもちろんのこと、人間力の向上ですとか、それから、「教職員の質の向上」、それから、教育内容について、環境や地域との連携なども見られるところでございます。

7ページのほうは、まとめとしての自由意見でしたけれども、4番、「在学生や卒業生が誇りをもてる学校になることを期待する」ですとか、10番、「中学校にそのまま進学したいと思うような質の高い教育を期待する」ですとか、14番、地域性を活かしたい。それから、人間関係の固定化を防ぎたいというような意見が出ておりました。

アンケートの結果は以上でございます。

2ページにお戻りください。9月2日に実施いたしましたご意見を聴く会では、有明小・中での学校評議員の方々、30名に集まっていたいただきまして、グループディスカッションをしていただきました。

いただいたご意見の要旨としましては、小中一貫教育について、導入を期待する意見が多かった。柔軟な対応や中1ギャップの未然防止などの効果が期待される一方、人間関係の固定化ですとか環境の変化に対応する経験が減るなどというご心配の声もいただきました。

特色ある取組としては、やはり英語教育の強化が挙げられておりました。それから、部活動ですとか、地域の力、オリ・パラに向けた取り組み、学校図書館の活用などが挙げられておりました。

その他の要望として、交通安全対策の確立、中学校の魅力化、それから、区内で不公平感が生まれることのないようにしてほしいといったようなご意見もいただいたところでございます。

私からは以上です。

眞 貝 委 員 長 かなりアンケート結果を見ますと、ほんとうにいいお話がたくさんありますけれども、問4の小中一貫教育の抱える課題というところで、教育委員会事務局として危惧している課題を何点かお聞きしたいんですけれども。

山 崎 区 長 指導室長。

本 多 指 導 室 長 今、アンケートの結果で挙がっていました「人間関係の固定化」ということが一つ挙げられます。しかしながら、教育委員会といたしましては、二つの面があると考えております。一つには、小・中が別々であることで、中1ギャップが生まれ、進学に際し、不安を抱えている子にとってみれば、中学校と一緒にあるということで安心感を持つことができます。しかしながら、例えば小学校で人間関係がうまくいかなかった子にとってみれば、その人間関係の固定化を危惧するということもありますので、このことについては両面あると思っています。

 ですので、教育委員会としての課題ではありますけれども、前向きに捉えながら改善できる方向で進めていきたいと思っています。

山 崎 区 長 よろしいですか。ほかに。宇佐美委員。

宇 佐 美 委 員 今、庶務課長からペーパーで提示のありました第二有明小・中のアンケートですけれども、小中一貫教育の導入への期待というところで、「大いに期待できる」、「まあまあ期待できる」が71.8%ですよということで、期待されているんだな、期待に応えなければいけないんだなというふうに感じます。

 この前の時間に教育委員会をやっておりまして、全国学力調査結果の報告がございました。数年前より小学校も中学校も全国との平均よりも上になっているし、東京都の平均よりも上だよというデータが出ているんですけれども、やっぱり全体として、小学校はとてもよくて、中学校は、まあ、さほどでもないということになっています。私立の中学校に江東区立の小学校から進む子が多いというのも一つの大きな要因だと思うんですけれども、そんな中でこの小中一貫をやることで、学力にも効果が出る、やりましょうよというところも期待されているんだろうと思います。

 教育委員会では常々教育長が、いい授業をやりましょう、いい授業のために学びスタンダードをやりましょうということで、全国の平均点より下の子どもたちに対しては学校に持っていくものの用意、前の日に何をするかですとか、家庭学習が非常に大切ですよというのを落とし込んだのが、小学校から中学校までの学びスタンダードだと思います。

本格導入してから、まだほんとうに数年ですので、小学校1年のときから江東区は学びスタンダードを持っていますよという子が9年たないと中学生に出現していきませんので、やっぱり学校としては最初の段階で、学級ごとに家庭学習、大切ですよ、やりましょうねということ学びスタンダードとして落とし込んでいく必要があるというような話をこの前の時間での教育委員会で申し上げたところです。

そんな中で有明地区も私立に進学する子が中学校で多いというふうにお伺いしておりますので、その辺が魅力的になって、さらに小中一貫教育をやることで中学校のそういった魅力が出てくることで、公立の江東区の中学校に進む子が多くなるといいなというふうに考えています。

それから、学校評議員の方とグループディスカッションしたということで、公立中学校への進学についての考え方や小中一貫教育への期待について、事務局のほうでどのように受けとめたか、その辺を聞いてみたいと思うんですけれども。

山 崎 区 長 どうですか。庶務課長。

杉 田 庶 務 課 長 グループディスカッション、やはりあの地域はほぼ半分のこどもが他地域に行ってしまう地域でもありますので、やはり中学校の魅力が高まれば、その辺が少し抑えられて、区内の中学校に進学してくれるこどもが増えるのではないかと期待をしながら聞いておりました。

山 崎 区 長 よろしいですか。では、本件については終了いたします。
続いて、「(2)江東区小中一貫教育の基本的な考え方(修正案)について」、事務局から説明願います。庶務課長。

杉 田 庶 務 課 長 それでは、資料2と3、参考資料で説明をいたします。
資料2と3については、6月の第1回の会議の後、修正や追加した部分をご説明したいと思います。

資料2をごらんください。基本的な考え方の概要版でございます。大きなところでは、一番上の青い枠の一番下の行に、「新たな課題」が丸で3つ示されておりますけれども、その3つ目のところが、以前は「人事異動などにより継続性・安全性の確保が困難」としておりましたけれども、その状況は連携校でも一貫校でも同じということで、一貫校になって配慮がなされれば多少の改善はあるかもしれないですけれども、それよりも今、挙げております「2つの組織による教員間の意識の壁」というほうが大きな課題と考えまして、これが解決すれば成果があがるということで、こちらのほうを載せております。

それから、下のほうの全区展開に向けてのところですが、以前は、「施設分離型小中一貫教育への活用」が入っておりました。この間

の議論を踏まえまして、一貫教育は全区で進めていきますが、施設分離型は、課題が多くありまして、ここでは、あえて出さないほうがよいというふうに判断しました。

それから、資料3でございますが、基本的な考え方でございます。1ページ、2ページは、書いている内容はほぼ同じなんですけれども、以前は社会的背景と江東区の状況が少し混在したような書き方をしておりましたので、新しく、(1)社会的背景、それから、(2)江東区の連携教育の成果と課題というふうに書き分けをいたしました。それから、2ページの(3)小中一貫教育を導入する効果も箇条書きで整理をさせていただきます。

このあたりに先ほどご説明しました区民の声を受けて、導入を期待する声があるといった項を書き加えたいと思っております。

それから、(4)の後あたりになるんですけれども、課題というところがあまり書き込まれておりませんでしたので、考えられる課題とその解決に向けた取り組みなどについても追加をしようと思っております。

それから、3ページの下の方ですけれども、(3)の連携教育との関係の後ろあたりには、後ほど参考2でご説明しますけれども、江東区全体にどういうふうに成果を展開していくかを少し整理をしたいと考えてございます。

次に、7ページ、特色ある取組のところに記載しておりますけれども、こちらも先ほどの区民の声を受けて、英語教育の強化ですとか、特色ある部活動を少し追加の表現を入れようかなと思います。

あとは、細かい文言の修正などが幾つかございましたけれども、修正した点は以上でございます。

続きまして、参考1をご覧ください。各区の調査結果でございます。7区でございます。4月に調査を実施し、9月に電話で確認などをしたものと、あと、実際の視察には品川区、足立区、渋谷区に行つてまいりましたので、それで少し書き込んだ部分があります。主なところをご説明いたします。

左から3列目に施設形態とあるんですけれども、港区、足立区、葛飾区は分離型、品川区で視察に行ったところは、隣接した校舎で、渡り廊下でつながっております。

それから、次の学年段階の区切りですが、4-3-2制をとっているところが3区ございます。けれども、6年生修了時には何らかの取り組みをしているということでした。それから、品川区の話では、4-3-2制になって、最初の固まりの4年生が一番上となり、責任感が育っているというお話がございました。

教科担任制はほとんどが実施してございます。

通学区域については、不一致が多いというところがございます。

学校選択制は、6年生が通学区域以外でも希望すれば、7年生へその

まま行けるという区がございます。

それから、メリットとして挙げていただいたものでは、中1ギャップの解消、それから、7区全部が、教員の意識向上を挙げております。あとは学力の定着。

デメリットとしては、やはり人間関係の固定化。それから、教員の時間の確保が難しい。中学校転入時のフォローが必要、とありました。

参考2につきましては、後ほど指導室長からご説明いたします。

それから、参考3については、イメージを参考に添付をしております。後程、学校施設課からご説明いたします。

山 崎 区 長 指導室長。

本多指導室長 それでは、私のほうからは参考2について簡単にご説明をさせていただきたいと思います。

A3判のカラー刷りになっているものでございます。文教委員会のほうでも小中一貫教育、それから、(仮称)第二有明小・中学校についてご報告をさせていただいているところではありますが、小中一貫教育の全区展開というところについて、わかりづらいというご意見をいただきましたので、どのような形で今後進めていくのかというのをわかりやすくお伝えできるよう資料を事務局でつくりましたので、私からご説明させていただきます。

まず本区の教育でございますが、資料の上部に大きな矢印があります。現在、区内において、23のグループをつくり、連携教育を進めており、小・中、そこに幼稚園、保育園も入っておりますけれども、幼保小中の滑らかな接続を図りながら連携教育を進めているところであります。

その下の段、現在(連携教育)と書いてあるところの左側を見させていただきたいと思います。そこにケース①、ケース②、ケース③と書かせていただいておりますが、区内を見ていきますと、例えば一つの連携グループ、一番上のところにあるものでございますが、離れたところにある小・中学校。離れたところにあっても、区内では連携教育を進めているところ。例として、そこには香取小、水神小、第二亀戸中学校と書かせていただきました。場所は離れていますが、連携教育の日を活用したり、連携グループを活用して、他区と比べますと、本区は連携教育に力を入れており、各学校において連携が進んでおります。

その中、小学校教育をピンクで、中学校教育をブルーで書いてありますが、それぞれのよさを取り入れて、例えば小学校では中学校の教科の専門性の高い教え方がいいよね、ということで、それを取り入れます。中学校では、小学校の教え方の丁寧さ、具体的な示し方、教室環境の使い方、そういったものもいいねと言いながら、それぞれ取り入れていく。これが連携教育の成果だと思っております。

2つ目、ケース②でございますけれども、もう少し近くにある学校ということで、第五砂町小学校と第二砂町中学校として例示をさせていただいておりますが、細い道を一本隔てて、その2つの学校があるわけでございますが、距離が近いということで、こどもや教員の行き来がしやすいので、部活体験や出前授業を行うなど、連携教育を一步進めております。近いということもあり、やりやすさがあるということがケース②でございます。

そして、ケース③といたしましては、これが現在の有明小・中学校でございます。施設が一つになったということで、さらに連携教育が進んでいるということに記載させていただいております。こどもも教員も日常的な交流ができているということがその左側にも書かせていただいております。

しかしながら、真ん中に薄い壁がありまして、小・中別々な組織であります。一貫した取り組みは進めているところでありますが、校長が2人いて、小学校教育と中学校教育がそれぞれ行われているというところでは、連携は進んでいるけれども、課題が残っているというのが、これが現在の状況であります。

さらに、小・中のさらなる推進を図っていくというところで、真ん中の赤い矢印のところでございますが、既存校においては、現在のそれぞれの学校でやっていることをさらに活用しながら進めていく。また、地域においてさまざまな取り組みを進めていただいておりますので、そういったところをさらに進めていく。もう一つ真ん中ですが、今回、平成30年度に施設一体型の学校ができるということで、今までの連携教育の成果を生かして、管理職も一人とし、組織を一つにした学校にしてみたらどうだろうということで、小中一貫教育、ここではあえてオレンジ色にしてありますけれども、そういった教育で進めていこうではないかと。これがこれから進めていこうとしている（仮称）第二有明小・中学校における小中一貫教育でございます。

では、全区展開をどうするかというのが、右側に書かれているものであります。小中一貫教育の実践の中で、例えば教育の内容や指導の工夫、そして、組織のあり方、施設のあり方について、よさがわかってきます。

（仮称）第二有明小・中学校を一貫教育としたよさがその黄色い矢印であり、それを現在の小・中学校の実態に応じて生かしていこうというのが本区で考えている一貫教育の全区展開であります。それが上の矢印の黄色のところですが、9年間の一貫した学びの充実を今後図っていきたいところであります。

では、全区展開の仕方でございますが、例えばケース①。離れたところにある小・中学校でも、その一貫教育のよさをさらに直接的に小学校教育、中学校教育に入れていくことで、より教育内容が深まったものになっていくだろうと、そういった形があります。

距離は変わりませんが、内容として強いつながりが図れるだろうというふうに考えております。そして、ケース②でありますけれども、さらに近い学校においては、取り入れられるエッセンスとして、例えば教育内容だけではなくて、指導方法の工夫もさらに取り入れていけるのではないかとということで、そういったよさをもっと入れてオレンジ色の丸が少し増えているところであります。

そして、ケース③でありますけれども、現在の有明小・中学校でありますけれども、一貫教育のよさを検証しながら、有明小・中学校は既に施設が一体型になっていますので、有明小・中学校も一貫教育にできるのではないかと考えております。

そして、ケース③として小さく書いてあるものでございますが、状況によっては、例えば施設が離れている学校でも、もし一貫教育を取り入れることで、より価値があるという判断があるのであれば、小中一貫教育を施設分離型でも取り入れることができるかもしれない。そういったさまざまな形で取り入れることが考えられます。

また、ここには記載はしておりませんが、大規模施設改修でありますとか、校舎の改築工事が行われるタイミングなどで、もし施設一体型がさらに取り入れられるのであれば、一貫教育をどう生かしていくかということも考えてまいります。このような形で全区展開を考えているところでございます。

簡単でございますが、以上です。

山 崎 区 長 今現在、五砂と二砂中のように隣接している学校というのは、連携している学校というのは幾つあるんですか。指導室長。

本 多 指 導 室 長 すみません。即答で幾つとは言えないのですが、五砂小、二砂中のようにできているところはほかのところでもあります。実際に何ができているかという、やはり近いというところで行き来が簡単ですので、子どもたちの体験というのができています。例えば、今、距離が近いところでいいますと、例えば南砂中と南砂小では、中学校と小学校で積極的な交流が行われています。また、あまり近くはありませんが、学校の努力としてできているところでは、例えば亀戸中学校と、浅間堅川小学校では、亀戸中学校の先生方が浅間堅川小学校に行って授業をするという取り組みをこのところ始めております。

山 崎 区 長 例えば明治小と深川二中は距離的には100、200メートルくらいだったかな。あそこもそういうことをやっている？ 指導室長。

本 多 指 導 室 長 深川二中と明治も徐々にやっております。一つ、特徴的なのは、金管バンドを明治がやっていますが、二中の吹奏楽部との連携が一つ進んで

きております。地域の特色を生かしながら、それぞれのよさというか、強みというのを生かしながら連携が進むというような感じです。

山 崎 区 長 例えば深川五中と豊洲小学校というのはやっぱり道路一つで隣り合っていると。そういったところを全区的に地図でも何でもとにかく落とし込んで、そういう連携。近接連携と離れた学校、離れたところにある小・中学校という、やっぱり相当違うと思うんだよね。その辺もやっぱり、今現在の状況ではっきりとみんなが認識していないといけないと思うので、そういう資料を一度つくっておいてください。

あと、実際に視察でみてきたと説明がありましたが、印象や感想はどうですか。庶務課長。

杉田庶務課長 先ほど表のほうで説明をしましたが、実際に視察に行ったところで印象的だったことをご報告したいと思います。

品川区は先進的にやっていて、教職員の組織が、小・中の教職員の組織が一つになることのメリットがかなり出ているというところが印象的でした。小・中の先生方のそれぞれの授業の仕方のいいところというのをお互いに取り込み、日常的に情報共有できるメリットが大きいのかなと感じました。

それから、小学校段階から中学校段階へ内部でそのまま進学する率が上がったという話がありました。

それから、5・6年生の高学年としての意識がどうかという課題も聞いてみたんですけども、4年生以下と一緒に活動させるなどをしているという話がありました。

足立区は、お話を伺いに行った小学校が一時ちょっと荒れていたというか、かなり元気のいい小学校だったんですけども、一貫になって、小学生の面倒を見たりして、落ちついてきたという話が印象的でありました。異年齢の交流という面では品川も渋谷も図られている状況にありました。

それから、渋谷区は、やはり小・中で職員室が一つになることで、常に情報交換ができて、研究授業も一緒にやっていると。今まではお互いの教科書も見たこともなかったんですけども、大分変わってきているようです。

それから、6-3制をとっているんだけど、生活指導的な面では、4-3-2制を取り入れて、柔軟に対応している。5・6年生で段階的に定期考査、中学校でやる中間・期末テストの実施に取り組んでいるというお話がありました。

以上です。

山 崎 区 長 今の点についてご質問ございますか。眞貝委員長。

眞 貝 委 員 長 まず資料3、基本的な考え方の修正案のうち、小中一貫教育の導入に向けた検討の前回の総合教育会議から社会的背景や有明小・中の課題について整理がなされ、導入の必要性について明確になったと感じております。23区で義務教育学校を設置しているのは品川区のみですけれども、義務教育学校でなくても小中一貫教育を行っている区もあります。前回、区長もおっしゃっておいりましたけれども、ほかの区のよいところをしっかりと取り入れていく必要があると思っております。

今、他区の実施状況について、調査結果について説明いただきましたけれども、これからも他区の状況を把握しながら連携を深め、他区の状況などを常に見ながら進めていっていただきたいと思っております。

山 崎 区 長 ほかにご意見は。はい。宇佐美委員。

宇 佐 美 委 員 後段に、今日の議題の3の中に学校名称の候補案というのが出るんですけども、他区ではほとんどの区がその地域の名前になっています。その中で、品川のこの日野、伊藤というのと、一番下の豊葉の杜というこのネーミングについてはいかなる理由で、その地域が、この伊藤という地域があるんでしょうか。日野という地域があるのか。それから、豊葉という地域が品川にあるんでしょうか。その辺、ちょっと教えていただきたいんですけども。

山 崎 区 長 庶務課長。

杉 田 庶 務 課 長 品川の名前については、基本的に地域の名前、母体校の校名が由来していると聞いております。

山 崎 区 長 伊藤というのは。伊藤という地名はあるのか。

本 多 指 導 室 長 伊藤博文の屋敷があったことに基づいているようですが、伊藤町という地名もあったようです。

山 崎 区 長 珍しいね。

ほかに。有明地域で、声を聴く会を開いたり、アンケートもあるわけだけれども、地域の期待というのはどんな感じですか。出ていないからわからないんですけど。庶務課長。

杉 田 庶 務 課 長 いろんなご意見出ましたけれども、やはり9年間一体的にというのが魅力的であるという声はございました。教育内容に柔軟性を持たせて、5・6年生から中学生段階につながる取り組みを期待したいというよう

な話がありました。あとは、小学生や低学年の見本となるような行動を心がけて、思いやりの心が育まれるのではというようなご意見がありました。あとは、地域に根づいた学校になってほしいとか、地域の大学、企業との連携、地域住民との交流を大切にというふうな声がありました。

山 崎 区 長 指導室長。

本多指導室長 先ほどの地域の期待ということでは、やはり一貫という部分では、中学校課程の特色を図ってもらいたいという声が非常に多かったです。現在も、例えば公立中学校に進むといったときに、この中学校に行ったらこういう特色があるからいいねといった判断をするという話をしていました。

では、どういう内容がいいのかという話をしたときには、やはり中学校で、例えば英語教育に力を入れているとか、有明地区であれば、近隣にも企業とか大学とかもあるので、そういったところの連携を積極的に取り入れたらいいのではないかとか、また、オリンピック・パラリンピックなど、こういった特色があるから入れたいというふうに思えるようなものが必要ではないかというご意見がありました。

以上です。

山 崎 区 長 進藤委員。

進藤委員 小中一貫教育の全区展開に向けた取り組みについては、今までの方向性ですと、第二有明小・中学校では、先行実施校として取り組みを進め、その後、今あります有明小学校・中学校で導入するという事になっておりますが、有明中には、近くに東雲小学校の児童も進学しておりますので、東雲小での取り組みもこれから重要になってくると思います。

最終的には取り組み成果を全区に展開していくということですが、東雲小のように、小学校と中学校が距離的に離れている学校もあるので、これからどのように展開していくお考えなのでしょうか。

また、第二有明小・中から有明小・中と続くことで、臨海部ばかりがいい学校になるというような声も多くございます。それぞれの地域には昔から、歴史も含めてそれぞれのよさがあると思うんですが、この辺はいかがでございましょうか。

山 崎 区 長 指導室長。

本多指導室長 離れた学校のお話でございますけれども、先ほど参考資料で説明させていただいたように、さまざまな地域の特性を見ていかなければいけないと思っています。学校はやはり地域に支えられて育ってきていますの

で、しっかりと議論しなければいけないと思っています。それぞれの学校のよさを持ったまま、内容については一貫教育のよさを取り入れていく。そのように、全てを一貫校にという形ではなく、柔軟に展開していくことが大事だと思っています。

それから、臨海部ばかりというお話がありました。そういったご意見は文教委員会の中でも出ておりますけれども、臨海部には新たな学校が必要になったので建てざるを得ないところもあって、学校を増やしております。しかしながら、例えば、亀戸地区や大島、砂町地区、深川地区などでは、臨海部の新しい学校にはない伝統と文化というもの、そして、やはり地域の方々、温かい皆さんに支えていただいているというよさがありますので、そういったところはなかなか新しい学校をつくって、どれだけ予算をつぎ込んでも、全く追いつかないところでありまして、できないところでもあります。開校100年を超える学校もたくさんあります。そういったそれぞれの地域のよさを生かしながら、やはり進めていくことが必要だろうと思っておりますので、確かに臨海部だけに一貫校ができるというような、今の状況ではございますけれども、それぞれのよさをうまく生かしていくことが必要と思っておりますし、今後、チャンスがあればそういった、例えば城東地区や深川地区においても施設改修とか、または離れていても一貫教育をやったほうがいいんじゃないかといった地域の温かい声があれば、そういったものも積極的に取り入れていくことも必要ではないかと考えております。

以上です。

山 崎 区 長 松江委員。

松 江 委 員 先ほどの資料の中に、第二有明のイメージ図がありました。これは基本的な考え方にもあったわけですが、一目見て、この第二有明の特色の一つである「木のぬくもりを活かした学び舎」ということがよくわかります。この参考資料の中に出ている大階段。これは既存の有明小・中にもありますけれども、目にも優しく、子どもたちが学校生活を送っていく上で大変に成長に適した環境だというふうに思います。木の回廊の中にあるコミュニケーションウォールというのはどんなものなのか。また、有明小・中ではどのような活用、生かし方がされているのか、聞いておきたいと思います。

山 崎 区 長 施設課長。

太田学校施設課長 恐れ入りますが、ただいまお話のありました参考3の資料をごらんください。1枚目は、(仮称)第二有明小・中学校の完成図の外観を示しております。南北の立面から見たものです。2枚目、3枚目が、今、ご

質問のありました木の回廊、この中にあるコミュニケーションウォールの立面図の内観パースでございます。本施設は、木材をふんだんに使った木の学校を目指しておりますが、その中でも大階段の吹抜空間である、この木の回廊は、本計画の大きな魅力の一つでございます。

コミュニケーションウォールというものは、設計者から出たのですけれども、この木の回廊の大壁面を使いまして、4階の真ん中に位置する図書館から言葉があふれ出してきて、左右の2つの階段を伝わり、下の階にも言葉が伝わっていくような、そういうイメージです。また、下の階から上の図書館にこどもたちをいざなうしかけということで、木材に字を刻んだ大きな壁にことばをちりばめるものです。こどもたちの想像力や探究心を沸き立てる、心に響く、楽しいたくさんの言葉や数式とか記号を壁面に刻む、そういうアイデアだそうです。

また、板に文字を直接刻むということで、本物の木材を使っているということを強調して表現することができます。これをきっかけに児童・生徒たちが木のぬくもりを肌で感じられるとともに、その言葉を図書室で調べるなどの学習にもつなげられたらと、そのような考えでこの設計をしました。

今日は実物大の木を、この刻んだ状況を持ってきておりますので、ぜひ、見ていただくとありがたいと思います。この木にレーザーでカットイングして、燃やしながら刻むので、本物の木だということが強調され、非常にいいアイデアだなと考えております。

コミュニケーションウォールの意味は、こどもたちがこの場で語らい、壁にある言葉を題材にコミュニケーションをとれたらいいな、そういう楽しい空間にしたいと、そういう意味でございます。既存の有明小・中学校におきましても、大空間のスペースでは、こどもたちが談笑する風景も日常的に見受けられますので、それを発展的に考えたものということになります。

岩 佐 教 育 長 よろしいですか。

山 崎 区 長 はい、教育長。

岩 佐 教 育 長 私からは、オリンピック・パラリンピック教育と、それから、小・中学校の相互のよさを生かした取り組みについて少しお話ししたいと思っております。

ご承知のとおり、8月、9月にリオのオリンピック・パラリンピックが終わりまして、我が国の選手がたくさん活躍してくれた。さらに、江東区の小・中学校の卒業生も、ケンブリッジさんや瀬立さんの活躍があって、うちの区のこどもたちが2020年のオリンピック・パラリンピックに対する期待が大変高まっているんじゃないかなと思います。

今後、全小・中学校、幼稚園に向け、オリンピック・パラリンピック教育が本格化してまいりますけれども、第二有明におきましては、特にオリンピック・パラリンピックを視野に入れた特色ある部活動の検討を進めていくということになっております。あわせて施設一体型の一貫校としての特性、そして、その地域の特性を生かしたオリンピック・パラリンピック教育を進めていきたいと思っています。

それから、今回新しい学校をつくろうということで検討しています小中一貫校は、小・中それぞれの指導経験のある教員が一つの組織に属していますので、中の教員を専門性、あるいは小の教員のきめ細かさという、そういう双方のよさを生かした取り組みが日常的に実践できるように取り組んでいかなければいけないと思います。

そうした取り組みの一つとして、小中一貫、9年間の課程の中で、とりわけ前期の課程、後ろのほうになるのかと思いますけれども、中学校の教員の専門性を生かした教科担任制を導入することについても検討を進めていきたいと思っています。そういう検討を重ねる中で、小中一貫校のよさが毎日の具体的な実践に反映できるような検討を進めてまいりたいと思います。

以上です。

山 崎 区 長

よろしいですか。いろいろご意見ありがとうございます。今、教育長からお話のように、オリンピック・パラリンピックに向けては、江東区中の小・中学校において、先生方の大変なご努力いただいて、こどもたちの意欲の向上とか精神的な高まり、オリンピック教育を通じた国際平和とかいろんな取り組みをやっているわけですけど、各学校の期待はものすごく大きいと思うんですよ。そこをどうやって今後つなげていくかということが大きな課題であります。

また、今、連携教育というのがあるんだけど、やっぱり今の時代の流れからいって、中1ギャップだとか、こどもたちの不登校とかいじめだとか、あるいは体力の低下とかいろんな課題がある。その中で国も都も区もどうしたらいいこどもたちを育てられるかということの一つの方向性として示したのがこの小中一貫教育であり、これは国も中教審もいろんなところで相当な意見をもんで、小中一貫教育の流れが生まれ出てきたわけですね。

果たしてそれが一体どうなるのかというのは、20年、50年先でないとも結果は出ないんですよ。私はそう思っているのね。すぐこれで、ああ、よかったねとなるのか、いや、あれは失敗だったよ、やっぱり小学校は小学校、中学校は中学校でよかったんだよというのかは50年ぐらいたたないと僕はわからないと思う。しかし、今のこういう状況を何とかしなきゃならんという思いからすると、こういう挑戦をもう既にほかの区も進めているし、たまたまこの第二有明は一体の形になるんだから、

一貫校に挑戦してみようという方向性になってきた。現在も学校が離れていても連携校としての努力はコツコツと江東区は続けてやってきているわけですから、これをこの第二有明で実践として生かした上で、そのよさをほかの学校に伝えて、それを受け継いでもらおうというかね。やっていくことによって、子どもたちがいい子になっていく。これはやっぱりそういった挑戦なんですよ。

その上で、50年もたった後にいろいろ結果が出てくるんだろうけれども、それは50年たった後に、ああ、やっぱりよかったねと言われるようにしないとね。我々、今の時代は笑われるんだ。それは文科省にしても、学校にしても、行政にしても。大変な挑戦をこれからするわけだから、施設は当然のことながら、やっぱり校長先生とか先生方とか教育委員会とか、みんなの力がしっかりと一体にならないと成功していかないんじゃないかという恐れを持っています。

そういった意味で、このアンケートをしたり、意見を聴く会を開いたりしてきたんだけど、これをベースにして、ほんとうに真剣に取り組んでいかないとならない。そして、その結果を、いいものを、ほかの江東区の小・中学校に伝えていかないといけないと思っています。今日、これだけいろんなご意見出ましたけれども、やはりさまざまなご意見、アンケートその他聞いて、なおかつ、他区の状況も聞いて、そして、そういったものを積み上げていく必要がある。教育委員会としても例えば実践する場合、開校までのあと2年の間で、その校長の人選もある。人選なんていうのは、これは大変なことだよ。よっぽどの能力がないとまらないし、あと、教員もね。連携に小・中両方、面倒を見られるような先生。とかく、中学校の先生というのは、社会は社会の先生と、専門的な人が多いから。僕らのこどものころの中学時代を思うとね。そういう人が小学校の小さな子を面倒みられるのかなという心配ごとが一部あるんです。

だから、やっぱり教育は人なりというぐらいだから、教師の質というか、これの人選も相当これは考えていかないといいですね。入れものはできちゃうんだけど、木の回廊がいいとか、いろいろいいものをつくってくれるけれども、問題は人だからね。だから、僕は大変な挑戦だと思っているんです。そういった意味で、教育委員会の果たす役割というのも非常に大事だと思っています。

実は豊洲北小というのは、中学受験するのが大半なんでしょう。みんな私立に行っちゃうわけだ。落ちた子が公立に行くというんじゃ、これじゃだめなんだよな。だから、そういった意味で、この第二有明の中学校へそのまま行きたいなという子どもたちが、親がどう勧めようが、僕はこの中学校のまま、ずっと9年間、ここがいいよと言われる学校にしていくというのは、これは並大抵のことじゃない。それは私立だとか国立だとか附属中学へ行きたい、行かせたいという親、子どもも行きたい

という子も当然いるわけだから、それを食いとめるなんていうのは、これはまた大変な大仕事です。そこに、教育に携わる我々の責任というのはものすごい大きいし、だから、この挑戦、この一貫校をつくる挑戦というのはよっぽど頑張らないとならないと思っているんですね。

ちょっと持論を展開してしまっただけでもないけれども、あと、ほかにもいいですか。何かご意見。

では、次の議題「(3)江東区立(仮称)第二有明小・中学校に係る学校名称の候補案について」、事務局より説明願います。

杉田 庶務課長 それでは、資料4をごらんください。事務局内では、48の候補案が出ていたんですけれども、各会議を経まして12の案となりました。先日の文教委員会におきまして、一番下に参考として、学校名称の考え方(案)というのがございますが、「江東区立」プラス地域名の「有明」プラス「〇〇学園」ということでいきたいということをご報告いたしました。

その後、今の有明小・中の一貫校化を見据えて、この4案に絞ったものでございます。今後、2にありますスケジュールを経まして、決めていきたいと思っております。

9月2日のご意見を聴く会では、その12の案をお示しして、自由に感想を言っていただいたんですけれども、基本的にこの地域名、「有明」というのはやっぱり欲しいということで、「〇〇学園」についてはいろいろ感想ありましたけれども、木をふんだんに使っているの、これがいいとか、さまざまご意見をいただきました。

以上でございます。

山 崎 区 長 この件についてご質問をお願いします。眞貝委員長。

眞 貝 委 員 長 これまで検討委員会、教育委員会などで審議を重ねて、48案の名称案から資料記載の4案が選定されましたけれども、いずれもいい名前だと思っておりますけれども、ここから先、1案に絞るとするのはほんとうに難しいのではないかなと思います。

ですけれども、何よりも大切なことは、地域に長く愛される名称でなければいけないと思います。そのような名称を決定していくことが大切と考えているところです。

以上です。

山 崎 区 長 ほかに。宇佐美委員。

宇 佐 美 委 員 先ほど実物大の木を太田さんが持って、入室されたんですけど、あそこに例で書いてあったのが人間と生まれて人となる。英知になると書い

てあるんですよね。だから、その心はということなんだと思いますよね。それで、英知、ピープルがヒューマンになるという、そういう木質のパネル。その木構造や木質化を図る。相当、学校として環境のいい、深川は木場がありますし、その木のぬくもりを感じさせる、そういう学校になるのかなというのが先ほどのところでわかりました。

それで江東区の名称は、深川一中から五中までのようなナンバリングと、あとはやっぱり地域の名前となっていることと思います。香取小といえば、香取神社だと思いますね。その中で、この4案なので、豊洲に対して、豊洲西、豊洲北というような案もここにあるんですけども、私が一つ、これがいいということではありませんが、この「有明の杜」の「杜」の使い方なんですけれども、さっきの品川区でも「杜」がありました。

「杜」で私が想起するのは、「都の西北、早稲田の杜に」というところでして、やっぱりさっきのヒューマンになるということなんですけれども、早稲田の校歌も非常にいい校歌なんですけど、その後が、今日ちょっとインターネットで調べてきたんですけども、相馬御風さんが作詩をされていて、その誇るべきは、「我らが日頃の抱負を知るや 進取の精神 学の独立」としてあります。車中、その話をちょっとしてきた人間がいるんですけども、やっぱり仕事を私、この深川の地でしております、やっぱり校歌の表現というのは散々、まあ、早慶戦で歌ったり、コンパで歌ったりしてきたんですけども、それ、やっているよね、進取の精神をとって、代々創業、仕事でしているよね。学の独立でさまざまなものを謙虚に素直に受けとめて、勉強しているよねということなんだと思います。そういった学校、そういうこどもが、私を比較して云々ではありませんけれども、そんなふうなことをこの「杜」というところからは思い浮かべます。

もう一つ話をさせていただくと、さっきの教育委員会でちょっと笑いで出たんですけども、私の中学3年のときの数学の先生が岩佐教育長、奇跡的なことで、東京都から来られた教育長が、私が中3のときの数学のクラスの先生でした。私ができが悪くて、だめじゃないかと言われたものなんですけれども、やっぱり高校1年になって、自分でやろうと、勉強をやろうと決めて、大学も入って、仕事もしています。

ですから、そんな環境というか、人に恵まれて、さっき区長おっしゃいました。学校長、これだけいい学校ができるんだから、学校長の人選だって大変なことだよと、チャレンジしなきゃいけないよと考えました。「杜」ということから想起させるのはそういうことだということで、意見申し上げました。

以上です。

山 崎 区 長 ありがとうございます。進藤委員。

進藤委員 今、宇佐美委員の「杜」のイメージ、よくわかりました。いろいろ出ているんですけども、4番目の「有明西学園」、「西」ですね。有明地区のどこに位置しているかということがイメージできるんですけども、どうでしょうね。一方で、第二有明小・中学校の特色をイメージさせる名称にすると、その地域の方々も非常に親しみやすく、その学校に子どもたちを送って、愛情を持って、いろんな行事もできるのではないかとこのように思いますので、何かこう、そういうイメージを起こさせるような名前がこれから必要ではないかなというふうに思います。

山崎区長 いろいろ名称というのは、こどもの名前をつけるのだから難しい、苦しむんだけど、大変なことですよ。いろんな人のご意見を聞きながら。この「西」というのはやはり将来、現在の有明小学校・中学校が一貫校になると、場所的には東。そういった意味で対になる意味で「西」、「有明西」、「有明東」と、将来を見るとそのほうがわかりやすいのかなと思うんだけど、ちょっと夢がないねという意見もある。「杜」とか「みらい」とかつけたほうがいいんじゃないかということもあるし、逆に、「こもれび」だとか「みらい」なんて、誰だっけつけられるよという意見もあるだろうし、非常にこれは難しい。ほんとうに難しいですよ。

委員の皆さんにもここでしっかり聞きながら。11月25日、（最終案）報告とあるけど、11月に決めるのかい。まあ、どこかで覚悟しなきゃならないんだね。庶務課長。

杉田庶務課長 スケジュールとしましては、11月中に事務局でも、もう少し議論をしまして、できれば11月25日の教育委員会で、1案をご報告できればと思っております。12月の文教委員会、それから、1月の総合教育会議を経まして、2月と3月で条例改正を提案させていただきたいということでございます。

山崎区長 そんなスケジュールじゃないと間に合わないの？

太田学校施設課長 実はこの校名を校舎につけるのに当たって、製作日程がかなりかかることなので、できればこのぐらいで決めていただくと、学校に校名サインをつけるのに間に合わせる、この辺がぎりぎりのところかなというのが設計業者の話です。

山崎区長 あと2年？

太田学校施設課長 今年度、半年が経ちましたので、あと1年半です。

山 崎 区 長 あと1年半。

どこかで腹をくくるしかないよな。「杜学園」と「西学園」の話が出たけど、「みらい学園」とか「こもれび学園」に対するご意見、松江先生、いかがですか。

松 江 委 員 「みらい」というのは、教育理念のキャッチコピーにも、「未来への扉をひらけ 江東の子」とあるわけですから、未来あるこどもたちにとって、輝ける場所となるという意味で、よい名称だとは思いますが。

また、「こもれび」は、平仮名ですと、他のイメージになりやすい。言葉自体、緑色の葉におひさまの暖かい光がとけこむ様子が想像されて、よいというふうに思うんですね。ただ、どの子も「こもれび」じゃなくて、たくさん光を浴びさせてあげたいというふうに私は思うんですね。

山 崎 区 長 はい。

岩 佐 教 育 長 よろしいですか。4つとも全てたくさんある中から絞ってきたので、それぞれよさがある名前になると思うんですけど、「みらい」について考えると、教育理念とか、教育目標として取り上げられている共通のキーワードというか、普遍的なものでもあるのかなと思うんです。そういった意味では、学校の特性をあらわすという意味から、少し課題があるのかなというような感じはしております。

それから、「杜」や「こもれび」という言葉については、まさに学校をつくってきたコンセプト、木というものに関連するキーワードなので、これもとてもいい言葉だと思うんですけど、辞書を引いてみると、「杜」というと、樹木の生い茂ったところ、それから、「こもれび」というと、樹木の枝葉から差し込む日光という、そういう意味が書いてあります。

そうすると、この言葉を聞いた方の中で、いわゆる生き物として、樹木としての木と、それから、建物をつくっている建築材としての木という部分で違うイメージをお持ちになる方も中にはいるのかなとずっと考えている中で思っております。いずれにしても、この4つの案について改めてしっかり検討して、最終的には一つに絞っていかなくちゃいけないですね。

山 崎 区 長 名前を決めるというのは、さっき言ったけど、こどもの名前をつけるときは、何かこう、うきうきするような楽しいことなんだけどね。かといって、変な名前をつけちゃったら、あとで変えられないんだ、これが。こうしておけばよかったというわけにいかない。そこに来るこどもたちのことも考えなくちゃならないから、大変難しいことなんですけど、まあ、

期限が決まっちゃっているんで、いろいろまた皆さんと意見を交わしたけれども、どこかで腹をくくってもらうということになろうと思いますので、よろしくをお願いします。

さっきの一貫校の話ですが、例えばこういうことがあったな。岩佐さん、都から来たからあれだけでも、昔、都立高校が学校群制度になった。小尾教育長の頃だったよね。

岩 佐 教 育 長 小尾帛雄さんですね。

山 崎 区 長 うん。これで都立高校は大きく変わったんですよ。僕に言わせれば、質の低下があった。それで今、ここ10年ほど前から都立高校改革というのをしましたよね。僕は、制度とか方法というものには、この一貫校もそうなんだけれども、そういう恐ろしさがあると思っているんですよ。そうなっちゃいけないよね。今は、進学重点校や中高一貫校と制度改革をして、都立高校の復活を目指していきますと。やはり教育というのは、制度も含めて大事で、しかし、だからといって、その学校群になった高校の、都立高の質は落ちたけれども、子どもたちはどうだったのかというと、しっかりした子どもどんどん出てきてはいるんだよね。昔と大きく変わってはいないと思うんだけど。

そうしますと、やっぱり人なんだなというところに落ちついてしまうのかなという気がしますね。この名称もあるわけだから、みんなで知恵を出して、決断をしなければならぬので、一つ、まだ、あと1カ月ぐらいあるか。毎日考えましょう。どうもありがとうございました。

じゃ、ほかに何かありますか。いいですか。

(「はい」の声あり)

山 崎 区 長 それでは、本日の案件は終了しました。
最後、事務局から報告があったらお願いします。次長。

石川教育委員会次長 事務局よりお知らせいたします。次回の会議日程でございますけれども、来年、平成29年1月23日月曜日午後3時からの開会を予定しております。後日改めて事務局よりご連絡を申し上げます。

山 崎 区 長 それでは、以上をもちまして、第2回江東区総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

— 了 —